

# 強者の戦略

《一橋大学 1番 2009年》

世界の地理は、ある「スケール」を共通にもつ領域がモザイクのように水平に集まって構成された「層(layer)」が、いくつもの地層のように垂直に重なり合って編成されている。この「スケール」は多様で、高次のものから低次のものへと順に例示してみると、①グローバルな経済・社会・政治空間、②EUやSCO(上海協力機構)などの国家連合、③国家、④都道府県や州などの地方自治体、⑤個人や法人が占有・所有する土地区画、などとなる。

なお、ここでいう「スケール」とは、領域の絶対的な広がり的大小をいうものではなく、ある種類の領域に共通にはらまれた経済・政治的な性質を意味する概念である。例えば、ルクセンブルクとロシアとは、国土面積に著しい違いがあるが、「国家」という共通の性質を持つ同一スケールに属する。

同一スケールの領域間の関係を水平的にみると、ひとつの領域の内部では、比較的自由にヒト・モノ・カネが流れるが、領域相互は境界で仕切られていて、ヒト・モノ・カネの透過性を、領域を支配する主体が、境界通過地点においてコントロールする。境界の透過性をコントロールする主な目的は、領域内の経済的・社会的一体性を維持し、またその領域を支配する主体の政策目的を実現することである。とくに、③のスケールである「国家」という領域は、法律と、警察・裁判所・収容所などに裏付けられた権力装置を持っている。この権力装置は、③の領域を仕切る境界である国境の通過についても強制力を及ぼすことができるため、他のスケールの領域と比較し、政策目的を実現する最強の力をもっている。

しかるに、異なるスケール相互の関係を垂直的に見れば、あるスケールでなりたつ領域の支配は、他のスケールには及び難い。例えば、国家といえども、動植物の生態系や大気の動きのような、人間がかかわらない自然地理学的な諸物の空間的広がりにはコントロールできない。このため、国境を越えた自然保護などが、困難な解決すべき課題となる。

逆に、諸国家が合意して、新しいスケールとして②のような国家連合を形成し、国境の透過性そのものの管理をこの国家連合にゆだねれば、経済発展、社会統合、環境保護などに関し、より効率的かつ効果的な政策が実現できる可能性が生まれる。

こうして、グローバル化がすすむ今日の経済・社会においては、あるスケールにある領域の境界がもつ透過性を、経済・社会・自然現象がもつ他のスケールを考慮しつつ、「地層」全体としてコントロールし、もって政策目的を実現しようとする、垂直的な「領域統合」が重要な政策課題になってきた。近年、とくに欧州で、この課題の体系的な政策化がすすんでいる。これが、最近EUがすすめる「マルチレベルガバナンス」(複数の空間スケールにまたがる統治)という政策志向である。

この政策志向においては、第一に、EUより高次の、「ワイド(er)ヨーロッパ」(EUをとりまくより広い空間的範囲)に、援助・軍事・通貨などの面で積極的に関与し欧州の安全保障を実現する、第二に、国境を接する諸国が、より低次の④のような空間スケールにおいて、国境をまたいで共通の問題を解決するための局地的協力を図る「ユーロリージョン」などと呼ばれる組織を構築・発展させる、という両面に重点が置かれている。

問 イラク戦争後、グローバルな政治空間では多極化がすすみ、地政学的拮抗が起こって新たな空間スケールが台頭している。下線部がいうEUの「ワイド(er)ヨーロッパ」構想は、その点でどのような役割をはたしていると考えられるか、述べなさい。解答に際しては、上海協力機構の主要な核である構成国を2カ国あげ、この機構がグローバルな政治空間ではたしている役割、ならびにグローバルな政治空間において従来米国がもっていた地位の変化に言及すること。(100字以内)

# 強者の戦略

## 【ユーラシア大陸と国際関係】

こんにちは、地理担当の南です。今回は、今年(2009年)の入試問題の中で特に異色を放っている問題を取り上げたいと思います。一橋大学の1番の問題です。二次試験を地理で受験しようとしている人には有名でしょうが、一橋大学の問題は全国の入試問題(地理)の中でも最難関です。近年は、農業や環境問題など、あっさり目の問題も増えてきて難易度が下がってきたような印象を持っていましたが、今年の問題に関しては、高校生ではとても解けないのではないかという出題が目立ちました。私の教え子も受験後に、「先生、全然分かりませんでした!」、「1年間お世話になったのに地理は0点かもしれません!」などの嘆きが発せられていました。まあ、結局は二人とも合格していましたが。

解くに当たって、上海協力機構(SCO)を知らなかった人は、どの国が加盟しているのか調べても良いと思います。それを調べたからといって、簡単に解ける問題ではありません。次に、近年のロシアとウクライナの関係を考えてみるのも良いでしょう。何か資源的な関係で、もめていたこともありましたが、ちょっとした息抜きに、地図を書きながら考えてみてください。東大の後期の出題にも似ていますので、東大志望の方でもご参加下さい。